

令和元年 11 月 25 日
川崎市上下水道局

令和元年台風第 19 号による排水樋管周辺地域 における浸水被害についての住民説明会に関する議事録

1 日 時 令和元年 11 月 18 日（月）19：30～21：00

2 場 所 宮内小学校体育館（中原区宮内 2－4－1）

3 対象地域 宮内排水樋管周辺地域

4 出席者

上下水道事業管理者 金子 督

上下水道局総務部長 大畑 達也

上下水道局下水道部長 鈴木 利之

上下水道局下水道部担当部長 松川 一貴

上下水道局下水道部下水道管理課長 松浦 妙子

上下水道局下水道部下水道計画課長 室井 弘通

上下水道局下水道部下水道計画課担当課長 峯 健介

上下水道局下水道部管路保全課長 後藤 正寛

上下水道局下水道部施設保全課長 清水 成利

上下水道局中部下水道事務所長 藤井 則明

上下水道局中部下水道事務所管理課長 松原 秀明

5 説明会議事

上下水道事業管理者：

川崎市上下水道事業管理者の金子でございます。台風 19 号によります浸水被害に関する説明会の開催に伴いまして一言ご挨拶をさせていただきます。はじめに、このたびの台風 19 号では、多摩川の水位が過去に例をみないほど上昇いたしまして、多摩川の水が下水道管を逆流したことにより排水樋管の周辺地域による浸水被害が発生いたしました。結果的に、このような被害を生じましたことについて、深くお詫びを申し上げるところでございます。また、被災された皆様には心からお見舞いを申し上げます。下水道事業者といたしまして、今回の事態、重く受け止めております。原因等しっかりと検証した上で、今後、同様な事態に遭遇した場合におきましても、被害を最小限になるよう、しっかりと対策等してまいります。本日の説明会では被害の概要、対応状況等についてできるだけ丁寧に、わかりやすく説明させていただきます。ご質問やご要望にお答えする時間につきましても、

可能な限り取らせていただく予定でございます。詳細につきましては、担当の課長から説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

司会：

続きまして、本日の市側の主な出席者を、ご紹介させていただきます。はじめに、上下水道事業管理者の金子でございます。続いて、下水道部長の鈴木でございます。続きまして、下水道部担当部長の松川でございます。続きまして、総務部長の大畑でございます。続きまして、下水道計画課長の室井でございます。続きまして、管路保全課長の後藤でございます。続きまして、中部下水道事務所管理課長の松原でございます。続きまして、中部下水道事務所長の藤井でございます。続きまして、施設保全課長の清水でございます。続きまして、下水道計画課担当課長の峯でございます。続きまして、下水道管理課長の松浦でございます。

市民：

すみません。壇上でやってもらえませんか。

司会：

続きまして、説明会の進行等に関して、3点ほど説明させていただきます。はじめに、説明会にご参加されている方、個人が特定できるような写真や動画の撮影はご遠慮いたしますようお願いいたします。

市民：

音が割れて聞こえません。

市民：

声が大きすぎる。

市民：

壇上でやってもらえませんか。ぜんぜん見えない。

司会：

次に、この説明会の記録を作成するため、録音させていただきますのでご了承ください。次に、この会場は、運営上、使用できる時間が9時までとなっておりますのでご了承ください。よろしくお願いいたします。

それでは、配布した資料について、管路保全課長の後藤から説明させていただきます。

市民：

すみません。今、壇上でやって欲しいって意見が出てるのに、何で無視するんですか。

司会：

すみません。ちょっと、壇上にはですね。色々と機材がありますので、ちょっと、前で、こういった形でやらさせていただいています。

市民：

じゃあ、その説明をしてあげたほうがいいじゃないですか。

司会：

はい。申し訳ありません。

市民：

不誠実ですよ。

司会：

はい。申し訳ありません。大変失礼いたしました。それでは、資料について説明させていただきます。

管路保全課長：

はい。管路保全課長の後藤でございます。どうぞ、よろしくお願いたします。それでは着席をして・・・

市民：

聞き取れません。

市民：

マイクが近すぎるのではないのでしょうか。

管路保全課長：

すみません。それでは、着席をして、説明をさせていただきます。お手元の資料に基づきまして、説明をさせていただきます。

市民：

今度は聞こえませんよ。

管路保全課長：

それでは、お手元の資料に基づきまして、説明をさせていただきます。はじめに、右下にページを記載しております。宮内-2ページというページをご覧ください。こちらはですね、浸水被害が発生した宮内排水樋管周辺地域の位置図でございます。右下の凡例にもお示ししておりますが、赤い丸印の場所に宮内排水樋管が設置されております。この宮内排水樋管の役割は、緑色の線で囲われた宮内排水区に降った雨を集めて、速やかに多摩川へ排水するために設置されたものでございます。この宮内排水区は、汚水と雨水を分けて排水する分流式下水道でございます。浸水の原因についてでございますが、浸水箇所には大量の土砂が堆積した状況を踏まえると、想定を超えて多摩川の水位が上昇したことにより、河川の水が樋管から下水道を通じて、地盤が低い排水樋管周辺箇所で、溢れたことによるものと、考えているところでございます。続きまして、宮内-3ページをご覧ください。宮内排水樋管箇所における浸水の概要でございます。左側が位置図になっておりまして、左下の凡例にお示しをしていますとおり、濃い青線でお示しをしていますのが宮内排水樋管、水色の線が、樋管に接続をしている下水道の幹線となっております。薄い水色のハッチがかかっているエリアが、上下水道局のパトロールで確認した浸水の範囲となっております。この浸水の範囲でございますが、職員がパトロール時に確認したものでございますので、

実際に浸水した範囲と多少の誤差があるかと思えます。大変申し訳ございませんが、その点につきましては、ご容赦をいただきますようお願い申し上げます。また、右側はパトロールの時に撮影をした現地の写真でございまして、位置図に記載のある番号の位置での写真となっております。それぞれの写真には、撮影した日時を記載しております。この地域では、想定浸水面積が約 11ha、赤丸でお示しをしている写真を撮影した地点で、およそ 1m の浸水があったことを確認しています。続きまして、宮内-4 ページをご覧ください。今回の台風第 19 号による、宮内排水樋管箇所の災害対応について、ご説明いたします。左上の図をご覧ください。赤丸でお示しをしている宮内排水樋管は、緑枠で囲んだ宮内排水区の雨水を多摩川へ排水する施設でございます。上段の右側の樋管ゲート写真にお示ししていますのが宮内排水樋管でございまして、縦が 3.24m、横が 1.9m のボックスカルバートが 2 つある 2 連の構造となっております。この樋管の縦断図を、左下にお示ししております。縦断図に記載される数字は、多摩川の基準面から測定した高さでございまして、樋管の底部の高さは 4.728m、宮内排水樋管箇所周辺の最低地盤高は 9.692m となっております。樋管に設けているゲートは、上段右側の、全景写真のような構造となっております、その位置は、下段の縦断図の破線の部分となっております。通常はゲートを上げて樋管を開けておりますが、このゲートを下げて、樋管の出口をふさぐことで河川から下水道への逆流を防止することが可能です。その一方、ゲートを下ろしている間に、市街地に雨が降ると、雨水の排水先を失うこととなり、内水氾濫を引き起こしてしまう可能性がございます。そのため、ゲートの操作は慎重に行う必要があり、操作手順に従い操作しています。続きまして、宮内-5 ページをご覧ください。次に、この宮内排水樋管に設置されているゲートの操作手順などについてご説明いたします。上部の黄色く着色してある、箱書き部分、宮内排水樋管についてをご覧ください。この操作手順では、多摩川水位が上昇し、浸水被害の恐れがある場合には、宮内排水樋管ゲートの閉鎖の判断を行うこととしております。まずはじめに、四角で囲っている 2 点目の箇所に記載しておりますが、操作の前提といたしまして降雨がある場合や、大雨警報が発令されている等、降雨の恐れがある場合は、宮内排水樋管ゲートを全開にするとしております。これは、ゲートを閉鎖することは、内水氾濫の原因となりうるため、市街地で降雨がある場合や降雨の恐れがある場合には、ゲートを閉じないこととしております。この箱書きの 1 点目をご覧ください。操作の判断といたしましては、田園調布（上）水位観測所の河川水位 7.60m において、周辺状況を踏まえ、ゲートの開閉の判断を総合的に判断する、としております。中央左の図は、台風第 19 号が上陸した 10 月 12 日～13 日にかけての、多摩川の水位と雨量データを時系列で整理したものでございます。青い折れ線でお示ししているのが、田園調布（上）水位観測所の河川水位の記録でございます。今回の台風第 19 号により、河川水位は 22 時 30 分に 10.81m という田園調布（上）水位観測所での計画高水位である 10.35m を超える観測史上最高水位を記録しております。また、青紫の棒グラフは高津消防署新作出張所での雨量観測データを表示しております。この図の右側には、当日の宮内排水樋管における活動記録を記載してお

ります。この活動記録をご覧くださいますと、15 時に田園調布（上）水位観測所の河川水位が、避難判断水位である 7.6m に達したことを確認しておりますが、この時点で、降雨が確認されておりました。そして、台風第 19 号がまだ上陸しておらず、今後、大雨が降る懸念があり、ゲートを閉鎖することにより、内水氾濫が拡大する可能性などを総合的に判断し、操作手順に基づきゲートを閉めないという判断を行っております。その後、降雨が実測されなくなったことなどを確認しましたが、河川水位が下降傾向であったことから、ゲートを閉めないという判断を行っております。以上が、10 月 12 日～13 日にかけての、宮内排水樋管のゲート操作に関する実態でございます。下段の黄色で着色してある箱書きをご覧ください。今回の浸水原因と今後についてでございます。今回の浸水は、下水道管理者としては、内水氾濫を発生させることがないよう、操作手順に従いゲート操作の判断を行ってきたところでございますが、我々としても経験したことのない事象であり、多摩川が観測史上の最高水位を記録したことや、土砂の堆積状況から、樋管を通じて河川水が、溢れたことによるものと考えているところでございます。また、今後につきましては、浸水メカニズム及び樋管ゲート操作に関する検証を進め、同様な事態に遭遇しても、被害を最小化できる方策を検討してまいります。なお、次のですね。宮内-6 ページには、宮内排水樋管周辺地域の地盤高図と先ほど説明いたしました浸水範囲をお示しをしております。こちらについては、後ほどご覧くださいますようお願い申し上げます。以上で、ご説明は終わります。

司会：

それではですね、引き続いて質疑応答に入ります。できるだけ、多くの方にご発言の機会を確保いたしたいと思っておりますので、大変恐縮でございますが、質疑応答はですね、お一人様概ね 5 分ということをお願いできればと思います。また、本日は座席を縦 4 列のブロックに分けさせていただいております。ご質問などはですね、ステージに向かって左の列のブロックの方から順にですね、伺ってまいりますのでよろしく願いいたします。それではですね、ご質問等のある方は挙手をお願いいたします。

質問者 1：

すみません、私、質問が 2 点ほど、宮内-5 ページからお伺いしますけど。まず一点目、ゲートの開閉する判断に関する情報があると思うんですけども、判断基準について、今回の 12 日、ゲート開閉、ゲートの閉鎖の判断が 2 回ほどあるようなのが、活動記録からみられるのですが、その判断は良かったのかと、もしよくなかったのであれば、それに対しての反省と今後どう、改善していくかという計画についてお聞きしたいんですけど、あともう一つ最後、今後についてということで。被害の最小化というのを検討とありますが。今回、最小化というのは、具体的に数値目標としてどれくらい、軽減していくのかとか、その方策検討について伺えればなと思います。

中部下水道事務所管理課長：

一番目の判断基準についてなんですけれども、今回ですね、こちらの宮内排水樋管は、分流式の、雨水の排水樋管になっておりまして、雨が降っている場合や大雨警報が発令されているとき、降雨があるときはですね、ゲートを全閉してしまうと、流れる先がなくなってしまうという特徴が、こちらの排水樋管にはあります。それで、総合的な判断基準はですね、降雨または降雨の恐れがない場合は、現地で降雨量や気象予報、雨の区域がどういふふうに動いてくるのかというのを確認しておりまして、今回台風ですので台風の進路ですね、台風が今後、川崎市に向かってくるという状況で、台風の進路を見ておりました。それで、多摩川の水位、こちらは水位観測所が田園調布（上）というところの水位をみているんですけれども、そちらの水位と今後多摩川の水位がどのようになっていくか、それを見ています。こちら多摩川の上流の小河内ダムの放流状況とか今後の放流の予定とかそういうものを判断材料にしまして、ゲートの開閉を判断しております。それで、今回ですね、15時の時点で、7.6mの避難判断水位を超えたんですけれども、その時点では、これから台風がやってくるということで、気象予報では1時間あたりに50mm、もしくは50mm～80mmの降雨の予報があったので、ゲートを閉めないという判断を行っております。

管路保全課長：

すみません。それと2点目ですが、今後の最小化に向けた取り組みということなんですけど、数値化というのはですね、今現在といたしましては、台風が来まして一箇月というところで、今後についてですね、今回、水位が非常に高く、多摩川の水位が上がってしまったということで、その場合のですね、浸水の今回の範囲、深さ等をですね、しっかり検証いたしまして、最小化できる方策を考えていきたい。この最小化といってるのはですね、今、説明がありましたとおり、ゲートを閉めてしまうと、雨が降っている状況で閉めてしまうと、やはり流れる先がなくなって、それによって、また浸水が発生してしまうことが起こります、ゲートの操作ということにつきましては、そこを最小化できる方策を、検証という形でですが、検討していきたいということ。後、短期的な目標として、何ができるのかということで、なるべく早いうちにですね、ゲートの方策を考えていきたいというふう考えております。

質問者1：

どういふふうに考えられているのか。今どのような状況で、どのように考えなきゃいけないとか。我々市民が知る手段って用意されていますか。

管路保全課長：

今の段階で、どういうことが、ご説明をですね、させていただいた趣旨が、情報をですね、市民の方に知っていただきたいということで、どういう状況でしたということをご説明させていただきたいという会になっております。今後ですね、検証をした結果はですね、何かしらの方法で、皆様に知っていただく、ということは考えています。その方法等ですね、どのタイミングで、どういふふうにというのは、今の状況で即答できないですが、何

かしらで出させていただくことは考えております。

質問者 2 :

北見方のほうに住んでいるものです。今回の説明会で、対象地域で入ってませんでしたので、前回、諏訪の説明会にも伺いました。ゲートを閉めなかったという判断について納得いかなくて、今回にも説明がありましたけど、やっぱり納得がいかないんですね。この23時の時点で閉めないという判断。素人考えですけど、ありえないと思ってですね。付近の最低の地盤よりも、多摩川の水位があがっているようなほどの水位となっていますよね。この地域、この最低地盤の、この地域というのは犠牲になれていう判断でいいのでしょうか。今回の、この地域での水害っていうのは、私個人としては天災っていうことではなく、人災だと思ってます。逆流というのがきちん抑えられていれば、間違いなく、ここまで被害になっていなかった思っているんで、話をお聞きする限り、ゲートを閉めたり開けたりっていう、きちんとコントロールできているような体制にもなっていなかったんじゃないかなとふうに、私個人は思ってます。質問になるんですけども、3時の時点で一度判断して、23時の時点で判断したってことでしたけど、その判断として逆流という状況を踏まえて判断していたのか。原則論としては、降雨し続けているときは開けるっていうのはわかっているんですけど、こちらのことしか頭になかったのじゃないかなというのがひとつ。ゲートを閉めるっていう判断は、15時から23時の間に8時間ありますけど。常に、まあ、一時間おきとか、どれくらいのスパンかわからないですけど、し続けいていたのかという。まあ、そのゲートを閉める責任者っていうのはどちらのほうになるんでしょうか。教えてください。

中部下水道事務所管理課長 :

15時と23時、その間はですね、パトロールを、排水樋管箇所のパトロールを行ってございまして、その間降雨があったということからですね、雨が、ゲートを閉めることで溢れてしまう。流れなくなってしまうということを考えて、ゲートを閉めないという判断をしておりました。15時から23時の間は、排水樋管、宮内排水樋管だけでなく、他の排水樋管もありましたので、その宮内だけをパトロールしてるわけではありませんでした。他の高津区諏訪、中原の上丸子山王、同じく二子、宇奈根と複数の箇所をパトロールを行ってございました。ゲート操作の判断につきましては、中部下水道事務所長のほうでゲートの判断を行っております。

市民 2 :

一言いいですか。一言いいですか。

司会 :

あのすみません。順に参りますので。

質問者 3 :

1点だけ、質問、聞きたいと思います。先ほどから聞いていますと、少し、ゲートを開める開めないという、今後の方策ですか、そこが強調されていますが。雨が大量に降って、川のほうも水位も上がって、両方上がるということ、ありうらと思うので、その他、何かいい方法というのを考えていただければと思いますが、その辺は何か、今のところないのか、あるのかどうするかということをお教えてください。以上です。

下水道計画課長：

今、頂きましたご質問なんです。当然、この地区はゲートを開めてしまうと、雨水がくるとですね、そこに内水がたまってしまうということがあります。今まで多摩川の水位もですねここまで上がってきてない状況もございました。しかしながら、こういうことも起きてございますので、今すぐにはとはいえませんが、少なくとも、その多摩川の水位があがったとき、ゲートを開めなくちゃいけないとき、じゃあそこで雨が降った時にはどうしようっていうのは当然大切なことですので、それをどういった形で、対策をしていくかっていうのは、色々あるのですが、例えば雨を貯めていくとか、あるいはもう少し流域を小さくするとか、そういうこともございますので、そういう方法につきましては、今後ですね、短期になかなかできないのですが、長期的な視野の中で考えていきたいと考えています。

質問者4：

今日の説明会、ありがとうございます。台風の後、ゲートについては色々、良く分かったのですが、家のすぐそばに合同の水路があって、そこが一度もなんか造っただけで整備されていないというところで。そこが、詰まったんじゃないかなということを聞かされているんですけども。現在は、泥とかきれいにしていただいて、きちんと整備されているように見えるのですが、それがきちんと整備されているのかどうかという連絡もちょっとわからないっていうのと、根本的に、程度のというか、問題があるんでしょうけども、小さな水路とかも、定期的にそういった形で整備がきちっとしていただけるのかのどうかの説明をしていただけると助かります。

管路保全課長：

水路の管理というか、ご質問ということですが。少し、申し上げづらいというか、縦割りだ、というご指摘も出ているかと思うのですが、水路の管理はですね。道路工事センターのほうで管理してまして、この、今後の維持管理については、今日、頂いた意見、ご要望について、道路工事センターのほうに申し伝えて、きちっとやっていくという形になればいいかなと思います。今回の浸水の原因は、上下水道局としましては、水路が詰まったとかですね、一番の大きな原因といたしましては、多摩川の水位があがってしまって、先ほどご説明してる樋管からですね、多摩川の水が、多摩川の水位の影響で溢水しているということございまして、直接水路の流れがどうだったかということよりもですね、多摩川の水位の影響でなってしまった。といたところでございます。

質問者 5 :

前の前の方の質問で、今後の対応について、長期的な視野で検討していきますということなのですが。例えばね、また来年同じような、多摩川の増水があった場合はどのように考えられているのですか。また、長期的にというのは、どのくらい長期的なスパンで考えているのか。

下水道計画課長 :

先ほど、ちょっと言葉が足りなくて、申し訳ありませんでした。先ほど、閉めて、本当にそれを貯めるような大きな施設と言うのはまず、長い時間と、多額の費用ですねお金がかかるのは間違いないので、この部分をご理解いただきたいのですが、また当然、来年、このような台風が来る可能性というはあると思うんです。そこまでに、我々が何をできるのかということは、当然整理していかなくちゃいけないんですが、少なくとも、今、方策の一例としては、閉めた段階でも、そのままですと、内水がたまっていきますので、その雨を排除するような、排除のポンプですとか、そういうものですね、考えていければなというふうに、今考えてございます。今回の事象というか、この件については、これから検証していくわけですので、その中でですね、できうる方策というのを幅広くですね、考えていきたいと思っています。

質問者 6 :

ご説明ありがとうございました。いくつか教えていただきたいのですが。まず、検証されるって言うのは、だいたい時期的に、いつごろまでを想定されているのでしょうか。それから二つ目は、今の中部下水道事務所の方から、人が足りなくて、パトロールをきっちりできないという話があったのですが、具体的にその、判断のレベルをあげるとか、被害を最小化するっていうことで、今具体的に優先順位高く考えてらっしゃること、この 2 つをお願いします。

管路保全課長 :

検証につきましては、先ほどもお話をさせていただいたのですが、多摩川の水位がここまで上がってきたというほどの事象は初めてでございます。この水位で閉の場合に、どの範囲が浸水しているのか、どの深さなのかということ踏まえてですね、事象をしっかり検証します。これにつきましては、来年の 3 月を目処にですね、検証して、今後の方針等をですね、決定したいと思います。その中で、先ほども質問があったのですが、短期的にできることをですね、何ができるかということで、そういったことをなるべく早く進めていきたいというふうに考えています。

中部下水道事務所管理課長 :

すみません。パトロールのご質問、もう一度だけ、お願いできますでしょうか。

質問者 6 :

詳しく理解できなかったのですが。宮内地区だけをパトロールをしているわけではなかったというお話があって、判断材料という、なるものはいったい、何だったのかということで。本当に、さっきのさっきの答えじゃないですけども、何を持ってその、単に多摩川の田園調布の水位だけでご判断されているのではないとは思いますが。例えば、実際に宮内の排水樋管から、水がどっちに向かって流れてたのかとか、というのがお分かりになって、判断されたのかとかですね。あと、この地区に降った雨量とかを、大雨警報が出ているだけで判断されているわけではなくて、それなりに降水量に基づいて判断されてるって言うふうに思っているのですが。やっぱり、今の話で行くと、単に、多摩川を氾濫させないということが優先されていて。基本的に、逆流することは承知の上で、閉めなかったというふうにしか思えないんですが。

中部下水道事務所管理課長：

宮内地区の浸水を確認したのが、10月12日の17時ごろ、午後5時ごろに確認をしております。その後ですね、今後の降雨の状況、気象予報がですね、これ以上、雨が降ってしまうと、ゲートを閉めると、さらに内水の方が流れなくなってしまうと、浸水が拡大するだろう。という判断を行った上で、ゲートのほうを閉めないと考えていました。

市民6：

てことは、1丁目は浸水してもいいってことですね。下野毛3丁目と1丁目は浸水してもかまわないから。でも、多摩川は氾濫させたくないし、内水氾濫はおこさせたくないから、よって、ゲートを閉めないという判断をしたということ。そう、とらえてよろしいですね。

中部下水道事務所管理課長：

えっとですね。内水氾濫、下水道管から溢れることで、下野毛地区と宮内地区が、さらに浸水が拡大する・・・

市民6：

だから、そこまでは浸水してもいいってことですよ。で、うちの地区は最大何m浸水したか、わかってますか。軽く見やがってますけど。・・・お偉いさんたちいますけど。

市民6：

言ってみろ。

市民6：

どこだって言ってください。左から。右から。言ってください。

司会：

申し訳ございません。順に伺ってまいりますので。

市民6：

うるせえ。

市民6：

いいよ。

市民6：

うるさい。

市民6：

言ってよ。ほら。

市民6：

あんた、わかってんのか。

司会：

公平にですね。

市民6：

公平にとかじゃねえよ。

市民6：

公平じゃねえよ。

市民6：

こっちは浸水してんだよ。

司会：

申し訳ございません。

市民6：

知ってんのかよ。

市民6：

言ってみろよ。おい。言ってみろ。

市民6：

言ってみろよ。

市民6：

わかってますかね。

市民6：

言ってみろ。言ってみろ。言ってみろ。言ってみろ。言ってみろ。言ってみろ。言ってみろ。言ってみろ。言ってみろ。言ってみろ。言ってみろ。言ってみろ。言ってみろ。答えられないだろ。これが現実なんだよ。

市民6：

なあ、司会者さん、公平、公平って何が公平なんだよ。

司会：

順に当ててまいりますので。

市民6：

うるせえんだよ。

司会：

申し訳ありません。ご協力、お願いいたします。

市民6：

協力じゃねえよ。

司会：

では、続きまして。同じ列の方で、どなたかいらっしゃいますでしょうか。

市民6：

ちょっと、まだ順番じゃないけど。今回のことは、議事録でちゃんと執ってますよね。

司会：

はい。そうでございます。

市民6：

みんなに、広報していただけますよね。

司会：

はい。

市民6：

今のことも、残しておいてくださいよ。

司会：

はい。

市民6：

皆さん、答えられなかったんだから。

司会：

はい。

市民6：

静まれ。

市民6：

あのですね、一人一人、聞くのではなくて、まとまりがないので、意見をまとめて、それをまとめて・・・

市民6：

ちょっと待って。だから、議事録はいつ出していただけますか。どのように出していたいただけますか。そこ教えてください。

管路保全課長：

今日の議事録につきましては、きちんと取りまとめをしまして。どのような手段、いつまでというのは、この場ではですが。早めにですね。ホームページで、お知らせをできればと思います。なるべく早めに取りまとめをして、お知らせをしたいと思っています。

質問者7：

主に宮内-5の資料を中心に、ちょっと不明確な点があるので、教えて欲しいんですけども。土砂堆積ってというのは、これは多摩川の中の話ですよ。ちょっと、即答していただ

きたいんですが。場所が書いてないんで。土砂堆積って、これ多摩川のことですよ。えっと、皆さん、黙ってますけど。

中部下水道事務所管理課長：

はい。こちらは、多摩川の中もそうなんですけども。ゲートの、宮内町内側、多摩川の中でないほうも確認しております。

質問者 7：

だから、やっぱ、ゲートの中も堆積してて、流れが悪かったということですよ。そこは、全然、今まで、何でしょう。清掃かなんかしらないですけど、流れが、ちゃんとよくなるようにはなってなかったという理解があります。

中部下水道事務所管理課長：

そういうわけではなくてですね。今回の台風 19 号の浸水被害を受けてですね。排水樋管の中に、多摩川の土砂が、流入しているというのを確認したという意味でございます。

質問者 7：

ちょっと、よくわかんないですけど。とりあえず、時間もないので、次に確認したいのですが。田園調布（上）水位観測所ってのが、頂いた資料の地図にどこにも記載されてなくて、どこで水位を見てたのか、我々、全然わかんないですよ。見落としてますかね。

管路保全課長：

田園調布（上）水位観測所はですね。この、今日の資料には、記載をしておりません。申し訳ありません。場所はですね、東京都の田園調布にあるのですが、宮内-2 のページになります。上にずっと多摩川があるのですが、多摩川に橋が渡ってるところがございます。丸子橋・・・

市民 7：

わかってない。丸子橋じゃなく、田園調布でしょ。

質問者 7：

観測場所が、正確に理解されてないということで、次の質問に移りたいのですが。

管路保全課長：

多摩川の、この上丸子天神町と書いてある反対側、あたりになります。

(当日回答できなかった事項に対する回答)

田園調布（上）水位観測所は、多摩川の堤防の河川側にごさいますして、丸子橋から上流側へ約 500m 遡った、上丸子天神町の対岸側（多摩川左岸）付近にごさいます。

質問者 7：

そこが適切だったかどうかと言うのは、議事録のほうでかまわないので、ちゃんと答えて欲しいところですので。先ほども質問に出ていましたけれど、宮内-5 の資料で、15 時から 23 時前、23 時までの間、その間、パトロールが人員的な問題でできなかった、云々といいながら、17 時に宮内地区の浸水を確認したって言うふうにコメントありましたが、なんでそれがここに入っていないんでしょう。15 時から 23 時というのは 8 時間、間が開いて

るのですが、この資料見る限りその間、宮内地区の、水位とかそのあたりを確認しなかったように見えるんですが。で、17時に、浸水が確認されたとすると、そこから、一番重要な時間帯だと、思ってまして。実際、私、自宅で浸水が始まってから、ずっとこう、どのくらい水が上がってくるか、何時まであがって来るか、ずっと観測してんですけども。家の中の浸水っていうのは12時30分で止まりました。で、左側のほうに出てる、23時30分頃にピークになってるのと、まあ、ほぼ合うのかなと。そのあたり、水が引いてったんだろうなと思うんですけども。さっきから、ゲートを閉める、閉めないのところで、閉めると、内水の懸念があるというような話がありましたが、このグラフのほうに、縦棒グラフで、薄い青い、降水量でてますよね。これ、縦軸が10分間に2mmとか4mmとか。実際その、16時以降って、2、3mmの雨ですよ。それでも、内水、雨量、降った雨による内水の、溢れるほうが、多い懸念があったので、ゲートを閉めなかった、という判断だったんでしょうか。先ほどから聞いていると、多摩川の水位が上がったんで、ゲートを閉めなかったって言うのが、水位が上がるためにゲート閉めなかったのが原因だと思ってるんですけども、その理由として、内水が溢れることを懸念してるという説明が、出てるんですが、この記録を見る限り、そんなふうに感じないんですけども。いかがでしょうか。

管路保全課長：

今のご質問ですね。雨が少ない、というふうに、このグラフからは読めるんですが、先ほども説明をさせていただきましたが、雨がですね、今後どうなるのかという予報は、気象庁のですね、発表、こちらを参考としておりまして、11時59分の発表。これは横浜气象台なのですが、1時間に50mm、昼過ぎからですね、夜遅くにかけて50mm、多いところでは80mmの雨が降ると、いう予報がありまして。その後ですね、5時48分。こちらにつきましても、12日の夜遅くまで、時間雨量が50mm、激しい雨が降る時には80mm。という見込みがあります、ということの予報があります、ありました。結果的ですね、こういうふうに、量がですね、少ないということがあったんですが、そのときの判断、そのとき、そのときの判断といたしましては、これから強く降った場合に、そのゲートが閉まっていることによって、溢れてしまうということを懸念として判断したところでございます。

質問者7：

雨量観測所のデータが、フィードバックされてない。天気予報の、局地的に何mm以上降りそうだっていう情報で判断されてたということでしょうか。それと、降った後に、その水が溜まって行くのには、タイムラグありますけど、そういうところって検証とかシミュレーションとかされてないんですかね。だから、単純に、多摩川の水位。それと、どうしても納得できないんですよ。多摩川の水位がすごく上がってて。で、それじゃ、逆流するのがわかってても、雨が降って、内水が溜まるからって説明ばかりだけど、その、結果的に、内水の方が多かったんですか。逆流するほうが多かったんですか。このグラフ見る限り、雨による内水の量って、多摩川の、川のほうが多くなってから逆流したよりは少ないんじゃないですか。そのあたりって、検証されてます。それと、これの一つ前のページ

に、縦割りの図が出てますけど、こういうところにですね、多摩川の水位がここまで上がって、ここに、多摩川沿線道路がありますけども、これの左側が、今回問題になっている宮内 1 丁目のあたり、沿線道路よりちょっと低いところになってるんですよ。そこと、多摩川の水位と、雨量の関係を、ちゃんと検証して欲しいんですよ。この、情報を見る限りに、私としては、多摩川の水位が上がって、ゲートを閉めなかったら、それが逆流して溢れるとしか思えないです。もちろん、雨が降ったことによって、内水が溢れるということもわかりますけども、そこは、雨量観測所との情報交換がうまくいってなくて、判断が正しくなかったとしか、見えないですけども。いかがでしょう。

市民 7 :

当日、雨なんか降ってなかったぞ。中原の。宮内は。

管路保全課長 :

雨量の情報につきましては、市がですね、持っているものです。高津消防署新作出張所の雨量データは見ていたところでございます。これはインターネットで見れるのものなので、見ておりました。ただ、繰り返しになってしまうのですが、今後の、その強い雨があるということですね、そのときの判断といたしましては、多摩川の水位がですね、どこまで、今回ですね、結果的にそうしてしまうのですか、計画高水位、多摩川の水が一番高くてここですよ、というところを超えてしまったというところの、両方をですね、あきらかにですね、水位が高くなってしまったからがゆえに、被害がこう・・・

質問者 7 :

だから、現状判断が遅い。水位が上がってるのをじっと見ているだけにしか見えないんですよ。「あー、あがってきた、あがってきた。やばい、やばい」のそれで終わってんじゃないですか。というふうにしか聞こえないんですよ。わかります。

市民 7 :

チェックになんか来てないぞ。役人が。

管路保全課長 :

結果的にですね、そういうふうにご指摘等をですね、頂くのは、仕方ないことなのかなと、今、感じるころではございます。やはり、雨がですね、50mm という結構、非常に強い雨で、80mm になるとですね、本当に強い雨という予報がある中で、この手順ですね、記載させてもらっているんで、降雨の恐れがある場合は、ゲートは閉めないという判断でございまして。手順がありまして。そういう判断をさせていただいています。先ほどちょっとお話がありました、こういうことをちゃんと検証しろというお話があったと思うんですが、これについてはですね、こんだけのですね、水位があがった、結果的には降らなかったのですが、降った場合にですね、今回の事象をですね、ちゃんと検証して。出していきたいと思えます。

質問者 7 :

すいません。一人で時間ずっと取って申し訳ない。後、1 点だけ。雨量観測所の水量は出

てるんですけど。多摩川の水位は、田園調布の観測所で水位を見てるわけですけども。雨による、内水の増加量というはどっかで見れるんですか。それを見るようなものってあるのですか。単純に、天気予報というか、降水予測とか、そういうところだけでしか判断されないですかね。比較対象がアップルトゥアップルになってないと思うんですよ。方や、実際の河の水位を測定してて、もう一方は、内水のほうは、推測とか予測とか勘とか、そんなふうには聞かえないんです。それで、判断、正しい判断ができるんですかね。

中部下水道事務所管理課長：

降水量等については、先ほど後藤の説明をしました、10分単位の雨量、10分毎に確認のほうはしているんですけど。降雨量によって、浸水がどのくらいになるのかといった、そういうものまでは把握はしておりません。降雨量と今後の気象予測、雨の区域が川崎市内に向かってくるのか来ないのか、そういう予測をしております。

質問者 8：

宮内の排水樋管から 10m ぐらいのところ、会社経営、工場を営んでいるものです。工業組合の方もたくさん来ていますし、近隣の住民の方もたくさん被害を受けておまして、本当に数億単位の被害を受けている状態です。その中で、質問をさせていただきますけども。ある市の方にお聞きしたら、宮内-5 のページにも関係するのですが。4時半から5時の間に一度だけ、宮内排水樋管来て以来、一度も、下水道の方は来られてない、来ていない、ということをお聞きしたのですが、これは事実でしょうか。何故なら、スタッフや近隣のかたは、心配になって9時や10時に堤防に上がってみているんです。6時くらいからあの辺りは、数ミリ単位で浸水し始めているんです。10時のころには、もうあの辺り一帯1mを超えた冠水をしています。そのピークのとき、このデータが出ていますけども、多摩川側は、サイクリングロードにも水がかからないというぐらいです。最高水位が 10.35 といことで、堤防が 14.35 なので、4m は、もちろんギリギリがいいとは思っていません。宮内だけのことを考えていないということもわかります。でも、4m の余裕があるときに、もうすでにたぶん、9時くらいからはかなりの床上浸水や、10時くらいをピークに1m超の浸水をしているのを、現場を見ていたら、降水量の有無だとかの判断ではないと思うですよ。それについて、本当に4時半に1回しかこなかったのかの事実を聞かせてください。

中部下水道事務所管理課長：

パトロールにつきましては、4時半から5時かけて1回行いまして。その後はですね、10時過ぎに、消防と一緒にですね、浸水の確認・・・

質問者 8：

この、写真ですよ。10時20何分の。その間、何故。今回、川崎側は、排水管エリアの、来週もその後もあるでしょう、高津もやられたと思いますけど、ほとんどそのエリアの被害ですよ。そこに人員を、7箇所か6箇所でしょうけど、配置できないんでしょうか。宮内の、黄色の中の操作手順というのは、あくまで過去の積み上げの中のシミュレーション

のゲート操作だと思うんですね。未曾有といわれて、過去のマニュアルにそってでしかできない。かつデータでしかできない、現場を見に行くことも 4 時半の段階で 1 回も来ない、それを見たら。まあ、もう一つの質問は、水門の閉鎖の時間が、どれくらいできるのかというのがあります。あと、もう一つ手段として、タイの洪水なんかで非常に役立ったという、ポンプによる汲み出しですね。このあたりというのは、川崎市としては今現在、何の準備ができているのかをお聞きたいと思っています。

中部下水道事務所管理課長：

ゲートの閉鎖にかかる時間なんですけれども、水がない状態で、宮内排水樋管は、閉めるのに 1 分 30 秒ほどかかります。ゲートを開ける場合はですね、7 分 30 秒ほど。宮内排水樋管はかかります。水位がある状態で、その時間で閉まるかどうかというのは、確認はしておりませんので、申し訳ありません。排水のためのポンプについてでございますが、今現在ですね、排水ポンプ、災害の排水ポンプは川崎市内で、高津区の諏訪 2 丁目では 1 台ございますが、それ以外の排水ポンプは、下水道のほうでは、ございません。

質問者 8：

もう 1 点だけすいません。先ほどと近い質問なんですけど、宮内の雨量とですね、川の水位、水域との関係なんです。やはり、夕方 3 時からピーク 22 時あたりまでに 8 時間かけて、川の水位が 2m ちょっと上がってると思います。で、川の流れは、上流と下流の関係があるので、あとから上がってくる可能性はあるとは思いますが。明らかに先ほどの質問の方と同じように、雨量に関しては、15 時あたりをピークにかなり下がっていますよね。それに対して、雨水の排水ルートが多少の時間差、多少タイムラグがあるとしてもそんなに蓄積されているとは思えないんです。リアルタイムに、外に排水していると思います。その時点で、繰り返しの質問かもしれないんですけど、なぜ現場を見たり、あるいはもっとデータを、閉門するとか判断が出来なかったのか、私も不思議ではないんです。このデータも、もう過去のデータかも知れないですけども、これも、1 つのね、我々、現場で見えています。現場で見てこの感覚わかります。雨もかなり降ってないということ、9 時 10 時から。雨水の排出よりも、多摩川の方からの逆流が圧倒的に多くて泥水が入っているわけですよ。皆様のご家庭や、企業も。この感覚って、お分かりになりますかね。今回の事。もちろん、現場を見てなければわからないかも知れないですけども。このデータ、素人が見ても逆流が多くなるってふうに私は思うんですけども。まあ、大学教授でもありませんけど、専門の。そのあたりの見解、詳しく教えてください。ありがとうございます。

中部下水道事務所管理課長：

すみません。何度も同じような説明になってしまうんですけども。この判断を行った時点では、今後の降雨、先ほどから何度も説明して申し訳ありませんが、50mm 以上の降雨が予想されるという状況がありまして。実際、降った降雨がですね、20 数 mm、30mm 弱、一時間あたりということで、結果は降らなかったのです。判断時点ではですね、内水が

溢れてしまう、拡大してしまうという状況を判断しまして、ゲートを閉めなかったというのが実情でございます。

質問者 9 :

先ほどは、すみません。興奮しまして。ただ、我々は、やっと思いで、こういう土地に来て家を買って住んで、こういった被害にあった。その中で聞きたいのが、二ヶ領の、二ヶ領用水ね。台風で、あれ、あがってましたよね。二ヶ領用水から宮内に流れる水門ありますよね。ありますよね。あれは開けてたんですか、閉めてたんですか。え、なんで、こんな答えられないの。え。

中部下水道事務所管理課長 :

すみません。場所は、西下橋の・・・

質問者 9 :

西下橋。

中部下水道事務所管理課長 :

上流というか新城よりの。武蔵新城よりの。

市民 9 :

何もわかんないんだよ。

質問者 9 :

だから、二ヶ領の水を運ぶためにも。我々のほうの低い土地に。あそこの水門開ければ当然、こっちは詰まってる、あっちは上流です。流れてきますよね。当然、我々、多摩川から水が溢れてる、もう一方は西下橋のほうから流れてくる。ちょうど合体したあたりから、ぐんぐんと水位が溢れてくる。結局ね、役所はね、みんなそろってるけど、現状は知らないんですよ。宮内地区は。みんなね、小杉とかのなんかあっちのほうに目がいつてる。我々の方なんて、みやしない。対応もしない。道路はもう泥だらけ。誰も役所の方なんか来ませんよ。そのまんまでいいんですか。おんなじ税金払ってるんですよ。そこらへんをもう少しね、やっぱり市民の立場に立ってくださいよ。課長さん、部長さん。奨励金とか、いっぱいお金もらって、やってる我々はやっぱり違うんだ、ということわかってくれなから、興奮する方もいるんですよ。初歩の初歩でしょ。水はここは閉めた、ここは開けた。それぐらいのこと、わかってくださいよ。それがわかんなかったら始まんないでしょ。たのんますよ。

管路保全課長 :

西下橋にあるゲートの話ですが、今、即答はできないので、現地ですね、そのゲートがどうなっていたということのですね、確認をですね、したいと思っています。実際に、そのゲートをどうなってるのかってことをですね、分かっていないじゃないかというご意見は、確かにごもっともです。それはですね、至急確認して、今後に活かしたいなと思います。パトロールについては、中部下水道事務所の管内で他のところも一緒にパトロールし

ていまして、実際のところはですね、中部下水道事務所に待機していた人間だけではもう追いつかない状況でして、西部下水道事務所というのが有馬のほうにありまして、北部下水道事務所というのが百合丘にございます。そこに応援を頼んでですね、多摩川付近のパトロールするように手配したところです。ですが、この地区に対して、手厚くというか、仰るとおりな状態で、今後は、この経験を活かして、さらにですね改善して行こうと思います。以上です。

(当日回答できなかった事項に対する回答)

西下橋付近にございます、二ヶ領用水から宮内雨水幹線への取水口につきましては、10月12日の台風の当時は、開いていたことを確認いたしました。

質問者 10 :

ゲートのところの責任行為的なもので、ちょっと確認したいんですけども。ゲートを全開にするというようなところで、規則的に、宮内-5の資料で出てくるんですけども、総合的に判断してゲートの閉鎖を行わずというような文言があるんですけど、これって誰が、こういうことを決めて、誰が実施するのか、ちょっと良く分からない。ゲートを見ると、国土交通省の看板があるんですよ。で、川崎市さんだけ、というのが良く分からないのでちょっとその辺、教えてもらえますか。

中部下水道事務所管理課長 :

樋管ゲートに国土交通省の名前入ってるんですけども。国土交通省から、川崎市の、上下水道局が排水樋管と排水樋管ゲートを、そこに設置することを許可しますよという意味で、国土交通省という名前が、あそこに入っております。ゲートの操作の判断につきましては、中部下水道事務所の所長のほうでゲート操作の判断をおこなっております。

質問者 11 :

こんにちは、こんばんは。家は浸水しました。下水道事務所の方にお聞きしたいことがあります。まあ、弁償とかそういう問題があります。ですけど、いったい、下水道事務所としては我々に何をしてくれるんですか。消毒液でも配ってくれんですか。家はカビだらけだ。消毒でもすんのあんた。ん。ただ給料もらってんじゃねえよ、我々の税金でやってんだから。消毒剤、配った。何をしてくれた。家なんてカビだらけだよ。ほら、ここにも出てるよ。書いてあるよ。このくらい浸かってんだよ。じゃあ、あなたたちはいったい何をくれた。消毒液でも持ってきてくれんのかい。具体的に。何にもしないじゃない。こんな時間に呼んでさ。何もしないなら、呼ぶんじゃねえよ。

質問者 12 :

私はですね、川崎市の住みやすい快適、安全な街づくりということで政策審議会と色々審議をしたんですけどね。今回の、こういう水害の問題はちょっとやらなかったんですけど

ど。今回のですね、内水氾濫の原因と対策、そこの課題ということで、先ほど金子さんの方にお渡しました。で、あんまり長くなると、まずいですから、一応メモ渡しますので、ひとつはですね、雨水排水樋管ですか、この排水雨水門の閉門処置ですね。これも、先ほどからずっと色々、意見ありましたが、現実、普通のですよ、普通の人が考えますと、まあ、流体力学ですね。水、は高いところから下に落ちるんです。だから、これが、今、どういうこの判断をした人が中部下水道事務局長というなんか、その指示で、というふうになっていましたけど、そういうことがわかっているのかどうかという問題ですね。

そうすると、色々問題があるんですけど。その中で、川崎市管轄のですね雨水排水用のですね、その水門がいくつあるのか。現実。その中でどうして中原区、高津区に存在する水門がですね、水門の数と、それと内水氾濫が多発するのはどうしてなのかということですね。まあ、原因はあれですよ。流体力学で、やはり水は高いところから流れるわけですから。あとですね多摩川水位の高さによって閉門するマニュアルがあると思うんですけど、その存在とですね。今回、一部の説明しかされていないですから、一般的には、何 m いったら閉めるんだよと、それから何 m というものがあるんですよ。そのへんのマニュアルはご存知でしょうか、これはちょっと先に聞かせていただけますか。その閉門のマニュアルですね。

中部下水道事務所管理課長：

排水樋管ゲートの、操作手順書がございます。

質問者 1 2：

操作手順書ですね。あるんですね。わかりました。それとですね。東京都側の水門。東京都側にも水門はあるわけですよ。その辺の、東京都のほうはあまり問題にはならなかったですよ。今回、外水氾濫はありますよ、二子玉川ですね。しかし、他の地区は、内水氾濫はあったんですかね。東京都。低いところもありますよね。多摩川の下流で。そのへんは、どうだったんでしょうか。

下水道部長：

多摩川の東京側につきましては、田園調布でですね、ゲートを閉めたことによって、内水氾濫があったというようなことは伺ってございます。閉めて、ポンプ排水をしていたんですけども、氾濫危険水位になったので、職員が避難をして、ポンプを止めてしまい、それで排水ができないので田園調布のほうでは・・・

質問者 1 2：

内水氾濫があったと。わかりました。それとですね、排水樋管ですか。排水樋門をですね。この開閉点検をですね、あと水害対策訓練の実施、この辺は、やられているかどうかということですね。で一部ですね、今日、多摩川を通りまして、宮内の排水樋管ですか、水位計がついてた、赤い水位計。この写真を見ると水位計がないんですよ。ここの、写真。これは、いつ、つけたんですかね。水位計。これで見ると赤いのがないんですよ。今日通ったら水位計の赤いのがテーピングされてたんですね。これいつごろなったのか、今後の

対策を考えてつけたのかということですね。わからなければ後でいいですよ。

中部下水道事務所管理課長：

水位標につきましてはですね、今年度、設置しています。

質問者 1 2：

今年度いつ。いつ、やられたんですか。

中部下水道事務所管理課長：

すいません。具体的な・・・

質問者 1 2：

いや、先月の 10 月 12 日、以前にされたということですか。

中部下水道事務所管理課長：

はい。そうですね。

質問者 1 2：

でも、この写真には。

中部下水道事務所管理課長：

この写真は更に一年前の国土交通省の。19 年の 5 月の樋管の国の検査というのがあります。その時の作成した資料になりますので、その後、水位標は現地につけています。

質問者 1 2：

ひとつ戻りますけど、水門の開閉点検、普通だったら 1 年に 1 回くらい点検しますよね。あと水害対策。現実にはですね、どういうその水害なのか、未曾有の水害も私も経験してきますけど。筑後川は内水氾濫はありました。しかし、水門はしめてますから、入ってこないですよ、それで入ってきたのは大変な水害かなと思いますけどね。その辺はどうなんです。水門の開閉点検、1 年に 1 回やっているのかどうか。先ほど開けるのに、水が無いときは 1 分 30 秒ですね。閉めるので 7 分。

中部下水道事務所管理課長：

開けるのに 7 分 30 秒。

質問者 1 2：

開けるのに 7 分 30 秒ですね。それで、閉めるのに。

中部下水道事務所管理課長：

閉めるのに 1 分 30 秒です。

質問者 1 2：

それで、ニュースの中では閉めようとたと。しかし、水位が高くて、ごみがどんどん来てるから閉まらなかったというニュースもちょっと見たんです。インターネットで。これは事実ですかね。

中部下水道事務所管理課長：

そちらは中原区上丸子山王の山王排水樋管というものがございまして。そちらの、ゲートの操作について、閉めようとしたんですが、時間がかかって、最終的には 12 時間くらいか

かったというような新聞報道。

質問者 1 2 :

いやだから、そこは閉めようとしたと。なぜ、宮内排水樋管はどうして閉めなかったんですか。なんで、差があるんですかね。

中部下水道事務所管理課長 :

こちら、山王排水樋管は、下水道の方式がですね、合流式。宮内につきましては分流式の雨水、分流式の雨水なんですけどもポンプ場とかそういったものがございませんので。一旦閉めてしまうと、流れていかなくなってしまうという、そういったものがございます。

質問者 1 2 :

まあ、武蔵小杉の方は雨水も汚水も全部内水氾濫で埋まっていますからね、小杉周辺は。しかし、こちらの方は泥で埋まっているわけですよ。で、その辺先ほど、言ったようにみなさん現場を確認したかどうかということですね。ここまで説明しにこられたわけですから。先ほど、なんもその回答がないわけですよ。これはちょっとおかしいなと。あと、それと、災害後ですね、対応が悪いわけですよ。縦割り行政ですから、これはこうです、これはどこですよと、その辺の対策のですね、一本化していただかないと、市民は怒りますよね。はい、次、もうちょっと時間あるようですから。あと、ハザードマップは見直しされると思いますけど。それをですね、今回浸水被害があったところはプラスしていただきたいですし、あと、内水氾濫を防ぐためにですね、大規模雨水貯留槽。これは正直できない。今日、自治会で出てますが、他のところいったら、2,300 億かかったよと、2,300 億円ですか。ということなんですけど、排水ポンプはまた違いますよね。排水ポンプは、高津区のほうから、何か提案あったみたいですけどね。この辺は、来年 7 月まで予算出せば、入るわけですから。7 月はでも間に合わないかもしれない。来年もまたありえるんですよ。それ大丈夫ですね。余裕があればその辺、金使っていただいて、この宮内地区、あと北見方。北見方のですね、マンションが大分被害があったわけですよ、現実。ここ埋まってしまったんですよ、地下駐車場も水に浸かってですね、今日こられてますけどね、正直言って大変なんですよ。その辺はほんと見ていただきたいですね。あとそれとですね、氾濫危険区域の最大水位看板。看板のですね、なんか色々つけてもらってるんですけどわからないってことなんですよ。現実。これもなんか部署が違うよと。危機管理室でも中原区役所の危機管理室じゃなくて、あちらの、市役所ですか。のほうがですから。

司会者 :

申し訳ございません。そろそろ・・・

質問者 1 2 :

もうちょっと、もうちょっと。今後に関してはですね。今後の問題点、ということを一応、4 項目書いてますけど。まあ、風水害対策本部ですね、この辺は大体読めるわけですね。台風なり、集中豪雨なり。読めますから、その辺、対策本部を早めにひいていただいて、設置していただいて、対応していただく。その後に関しては、色々な問題が出ますが、ワ

ンストップでですね、サービスをしていただくということで、縦割りじゃだめ何なんですよ。対策本部を設ける。もちろん、大震災の時にはそれでやっていただけたと思いますけど。そういう、風水害に関しては、前もってあることがわかることですから。先ほどの、点検もしっかりとして。水門のほうのですね。その辺のことを、お願いしたいと思えますね。まあ、まだあるのですが。先ほど、金子さんへお渡ししてますので、ぜひ参考にしてください。あと、一番最後の、流体力学。水は、高いところから下に行くわけですから。これは、皆さん、普通、小学校からでもわかりますよね。まあ、そのへんはちょっと、今回、指示出した人がいらっしやいますけど。その辺は、指示系統ですね。組織と指示系統をしっかりしていただかないと。15時から何時間かいなかったけど、これはまずいですよね。まあ、正直ありえないですけどね。まあ、本当、よろしくお願ひしたいと思えます。

質問者 13 :

皆さんのお話を聞いてますと、質問をする方は皆、大変な思いをして、一箇月以上暮らしたわけですね。それで、質問したときに、あなた方の態度は答えは、全部マニュアル通りにしか答えてなくて、想定のない質問が来ると全く答えられていませんよね。それは、あなた達が、日常から自分の仕事やなんかに責任を持ってないことで、下に任せっぱなしだということが、はっきりわかるお答えでした。それも、あそこの水門を開けたのは、マニュアル通りだということ、ずっといろんなところで話して来てます。でも、今回は死者が出たんですよ。死者が出たときに、緊急のマニュアルというものは作ってないのですか、あなた方。後で、答えてください。その緊急のマニュアルがあれば、放水した、多摩川からの放水した水がですね、本来でしたら二ヶ領用水のほうに行くんですが。今回、二ヶ領用水はどこもオーバーフローしてないんです。とういことは、二ヶ領用水から、水門を閉めてあってそのバックした水が、私どもの宮内1丁目また下野毛3丁目、そちらのほうへ、みんな戻ってきたんですよ。それで私どもは、私の家から、たかだか20mも離れてないところに、それが流れているんです。夜、そこがですね。噴射みたいに、ブワーって泥水がバンバン流れてるんです。夕方の5時ぐらいまでは、せいぜいひざ下ぐらいだったのが、夜、停電になってからですね。一挙に11時、12時ですね。私の頭を超えるくらいになりました。それがなんでわかるかって言うと。10時半過ぎに、私家の前に、袋で隠してあったにオートバイ2台が流された。それで、私、海水パンツ一丁になって、泳いでオートバイ取りにいきました。そんなこともありまして、オートバイ2台ともボツです。あと車もボツ。それとですね、私、自民党の方と共産党の議員の方に連絡しまして、今回の被害をみてもらったんです。それで、議員さんがいいました。今回は、これは人災だろうと。ですから、皆さん、皆で裁判を起こしたときは私たちも応援します。これはあくまでも人災です。ですから皆さん、集団訴訟になったら、皆さんと一緒に裁判をやりましょう。と言ってくれました。それと、今回は、あまりにも私達の地域の報道がなされてない。

皆さんご存知のように、毎日、タワーマンション、タワーマンションってやっていますよね。タワーマンションにいた方で、亡くなった方はいないんですよ。家具が水没した方なんていないんですよ。私どもの何十所帯、何百世帯というのは、全部 1 階の家具が全部ダメなんです。皆さんそうじゃないですか。1 階にいる人たちなんかは、夜中に、皆さんチャリで帰宅するんですよ。マンションの 1 階ですから。私のところは 3 階建てなんですけど、私が家を建てたときに、この辺は、他のところより 1m 以上低いよって言われて、わざわざ、家を建てるときに 1m20、底上げにして、家を建てたんですよ。それで、私の周りのところの皆さん、皆 1m 以上上げて、家を建てたんですよ。ですから、私たち個人個人は、それなりに何かの防御ということで、防御をしたんですよ。でも、そういう人達の気持ちもわからず、何にも普段から点検をしていないという行政のあり方、また当日、行政の方が巡回に来たところを 1 回も見せていません。皆さん、どうでしょうか。お水が出てからも、全然来てません。夕方、うちの隣の方が、市の方に電話をかけて、道路にあります弁を開けてもらったんですね。そしたら、1 分弱ぐらいで、水がバーっと出たら、まだスーと戻ってきちゃったんですよ。それからですね、水がどんどん増えてきたの。むしろ、夕方まではそんなに多くはなかったんです。夕方午後 10 時ぐらいになってから、いきなり水が溢れてきたんですね。それで、わたしは、こないだ。先月ですか、●●●（報道機関名）というところに電話かけまして。こんな状態なので、家に来てくれと、言うことで。3 日間、私、取材を受けまして。この現状を、●●●（報道機関名）の方で流していただきました。そういうことがありまして、本当に困っている人達のことが全然、わかってない行政も。全然、わかってないです。見舞金、最高 1 万円だっただけでした。私、市議に対して言いました。もう少しぐらい丸をつけても全然おかしくないですよって。といいましたら、若干、3 万円頂きました。本当にありがたいです。3 万円でも。ですから、こういうことが、少しの住民がものすごく、みんなの、ずさんな行政のための、犠牲者なんですよ。ここにいる方は、普段皆さん一生懸命いろんなことやってるんです。それが、あなた方の、普段、ちゃんとした仕事してないから、悪いけど、言わせてもらいます。ちゃんと下の者の意見なんか、上のほうにちゃんとあがってんならば、多摩川という、危険な川の側にいるんですから、もっともっと、住民のことを考えて、やっていただけるのが、行政の責任じゃないですかね。あんまりにも、しゃべりすぎますと、長くなりますんで。今後、100 年に 1 回と言わず、1 年に 1 回これからあるかもわかりませんので、今日、皆さんから言われたことをしっかりと、やってください。どうもありがとうございます。どうも失礼します。

質問者 14 :

質問に入る前にこういうチラシを皆さんに配布させていただきました。山王町の市民の方と、連絡を取り合っていて、あと、弁護士さんにも入ってもらって、今、今回の水害についての学習会を計画しております。今までの質問の中でも、例えば補償の問題なんか、今日はあまり出てませんが、それから被害を受けられた方、大変予定外の支出に

なると思うんです。こういったことの補償なんかについても考えていくような機会になればと思っているので、もしよろしかったら案内の日時、総合自治会館のほうでお待ちしておりますので、足を運んでみてください。ただし、山王町の方ですとか、もう少し下のほうの宇奈根あたりの被災者の方にも声をかける予定なので、ちょっと入りきれない場合もあるかもしれませんので、そのときは失礼いたします。質問の前に、資料の訂正をお願いしたいんです。さきほどもお願いしたけど、まったく伝えてもらえなかったもので、まず、宮内-3の浸水した区域が示してある場所なんですけども、この範囲の②の矢印のかかっている辺りと、①という数字、特養ホームの裏手のあたり、この一帯も完全に水没して泥まみれになっているのに、被災したことになっていない、エリアとして書かれていないのはおかしいんじゃないでしょうか。同じ理由で、宮内-6の資料も赤く線で囲まれた範囲から、今指摘した地域がまったく外れております。このあたりなどもちょうど水路からものすごい泥水が噴き出して泥まみれになっていらっしゃるんですよ。たぶん先ほどの方がおっしゃったように、家具もすっかり失いました。ところがその被害を現実を受けている地域が、こうして、今日みたいな大事な場所で提出される資料に載っていないのは、あまりにもずさんじゃありませんか。だからその辺はきちっと訂正して、該当した地域の方をもちいたことについては、お詫びしてください。次に、今回、核心的な部分なんですけども、宮内-5に示されている手順なんですけども、これは一体、皆さん、いつごろ策定されたものなんでしょうか。私の手元にですね、平成30年4月24日に発令されている、国土交通省の水管理・国土保全局河川管理課というところから全国に発信されたマニュアルの改訂の指示があるんです。このマニュアルの改訂の指示、何かというと、水門、まさに今回のような事態において、排水管の水門を閉める閉めないとする開閉の手順を見直しなさいという指示です。それでこの指示によると、明解です。逆流が始まるまでの間においては水門のゲートを全開しておく。開いておきます。そして、次、逆流が始まる時は、水門ゲートを全部閉すると、閉じなさいと。そしてまた水門を、川のほうですね、水位が下がったときには、これを全開にすることと明解に書かれているんです。ですから、皆さん、今日の説明で、ずいぶんと雨の降水量に基づいて、総合的に判断して、決めたとおっしゃっているんですけども、それ、おかしくないですかということなんです。判断基準は、水が逆流しているか、していないかで、閉める閉めないを決めなさいと国が定めているんですよ。それが原則なんです。雨がたくさん降っているか降っていないかは次の判断ですよ。それで、最悪ですよ、皆さんが恐らく心配したように、雨がたくさん降って、いよいよ下水管が閉めたためにあふれかえっちゃったとなった場合もですよ、今回川の逆流の水で、泥水で泥まみれになって、皆さん大変な思いを今してるんですよ。けども、もしこれが、雨水だけの浸水だったならば、少しはきれいな澄んだ水で浸かっただけで済んだんじゃないですか。そういうふうにして被害を軽減することができたんじゃないでしょうか。ですから、まずは皆さんの定められたこのマニュアルはいつ策定されたもので、それに従って今回判断したんですよ。これが間違っていないですか。ということを指摘したいと思

います。そしてこれ最後なんですけども、ここに、平成の 15 年の台風 10 号で、やはり今回のこの地域と同じような氾濫の被害が出た、北海道の沙流川というところで起きた、集団訴訟の裁判記録があります。この判決によりますと、水門管理者は住民を水害から守ることを第一に考える立場にあるんだ。ということを判決で明解に規定しています。そして、その結果を受けて、地裁判決では国は上訴しましたが、次の高裁判決では国は上告をあきらめて賠償金を払うことになりました。ですから、この判決確定しているんですよ。ですから、皆さん、川崎市は今回問題になっている水門の管理者なんですね。そして、その管理者である川崎市は住民を水害から守ることを第一に考える立場で行動しなければならなかった。それが本当にできていたのかどうなのか。きちっとした分かりやすい説明を求めたいと思います。

市民 14 :

国交省のこれはご存知ですよ。国交省のこの指示や指針はご存知ですよ。

中部下水道事務所管理課長 :

すいません。国交省の基準については、私のほうは、わかりませんでした。

市民 14 :

あの、諏訪なんです。これ、今年の 6 月にも見直しされてるんですよ。去年の 4 月に一回、国交省から通達が出ていて、その後、今年の 6 月にも見直しをするよという文書があるんですけども、それをご存知じゃないということ事態おかしいじゃないかということと、諏訪で質問したように、このマニュアル自体が、川崎市のマニュアル自体ですね。いつ、作られたものなのか、教えてください。

中部下水道事務所管理課長 :

現在の操作手順につきましては、平成 29 年度の台風の被害を受けまして、平成 30 年度に区役所の危機管理担当と、皆様への周知に関する連携を追加いたしまして、平成 31 年度 4 月にですね、現在の操作手順は運用されています。

司会 :

申し訳ございません。そろそろですね、時間もおしまりました。総括的な事項を鈴木下水道部長の方から、お話をさせていただきます。

市民 :

質問させてください。いいですか。質問。

市民 :

はい、どうぞ。

市民 :

いいですか。

市民 :

はい、どうぞ。

市民：

川崎市に、質問。

司会：

大変、申し訳ございません。近隣の住民の方もいらっしゃいますので、条件がつけられておりますので、申し訳ありませんが。そろそろですね、時間でございますので。総括的な話をですね、鈴木下水道部長の方からさせていただきますので・・・

下水道部長：

すみません。本日は、説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございました。下水道部長の鈴木でございます。冒頭ですね、お話をさせていただいたんですが、今回の事態につきましては、我々もですね、大変、重くですね、受け止めておるところでございます。今日ですね、皆様からのお叱りのお言葉、等々頂きましたので、それらを伺いまして、改めてですね、しっかりと取り組んでいきたい、いかなければいけないなというふうに思っているところでございます。今回のゲートの操作につきましてはですね、確かに、なぜ閉めないのかという、お声をたくさんいただきましたが、この判断につきましてはですね、今回、多摩川の水位が観測史上最高位の水位を記録したということと、併せてですね、大雨特別警報が出ていたところの大変厳しい状況の中ですね、我々の持っている操作手順にですね、基づいて、判断を行ってきたところでございます。結果として、雨がそう降らなくてですね、多くの浸水被害が出てしまったということでございますので、その原因については、これからしっかりと検証した上でですね、今後、同じようなことがですね、繰り返すことのないように、来年の3月までに、その方向性をですね、一定の方向性をですね、示したいなと思っております。また、来年の雨期までにはですね、そのゲートの操作の見直し、先ほどからありましたように、全開だ、全閉だ、ではなく。例えば、この位置にきたら閉めるとか、開けるとか、そういうところの検証もですね、今後やっていかなければならないし、そのポンプも今、持ってませんので、ポンプのですね、配備などですね、これから、早期の対策を講じていきたいというように考えてございます。それと共にですね、中長期的に、先ほどありましたように、雨水の貯留管であったり、大規模なですね、そういう浸水被害を軽減する施設もございますので、そういったものにつきましてもですね、今後はですね、しっかりと検討を進めていきますので、どうかよろしくお願ひしたいと思います。本日はどうも遅い中、ありがとうございました。

司会：

先ほどお話をしましたとおり、本日の質疑応答の内容についてはですね、内容をまとめてホームページで配布したいと思います。